

■基本的な対応	
①	三つの密(密閉・密集・密接)のいずれかに該当する状況が発生しないようにする。
②	大きな声を出すことを避け、運動時以外はマスクを着用する。
③	人との距離が1m以下にならないように身体的な距離を確保する。
④	参加者及び関係者は、水と石けんを使って、30秒以上の丁寧な手洗いをこまめに行う。
⑤	発熱や風邪症状等身体の不調が認められる場合は参加させない。
■参加募集時の対応	
①	体調が優れない場合、同居家族に感染が疑われる方がいる場合、2週間以内に渡航歴があったり、渡航者との濃厚接触があったりする場合、2週間以内に感染者との接触や濃厚接触者と特定された場合は、参加できない旨を周知する。
②	大会当日、コート内にいる選手以外のマスクの着用を求める。
③	選手及びベンチスタッフ以外の参加は、引率者のみとし、3名以下(帯同審判を含む)に制限する。参加申込時には、参加者全員(引率者も含む)の氏名と代表者の連絡先を記入した大会参加者名簿と健康チェックシートの提出を求める。※定員の50%の上限がある場合。
④	参加者に感染者が判明した場合、参加者名簿を関係機関に公表する可能性があることを周知する。
⑤	参加チーム数は、「使用するコート数×4チーム」を原則上限とするため、集合時間が指定されることがあることを周知すること。
⑥	大会受付時に参加者全員(引率・応援も含む)の参加者名簿及び健康チェックシートの提出を求める。
⑦	大会当日、参加チームは、手指消毒やベンチ等の消毒用の消毒剤を持参し、試合後や退館前にチームが使用した備品や施設の消毒をするよう周知する。
⑧	各チームが出したゴミは、持ち帰ることを周知する。
⑨	大会関係者が、大会終了後、2週間以内に感染症を発症した場合は、大会責任者への報告を速やかに行うことを義務づける旨を周知する。
⑩	大会関係者に、感染者が発生したとしても、その者を誹謗中傷することがないようにお願いしておく。
⑪	ガイドラインに示した内容に協力を得られないチームや参加者は、参加を取り消したり、大会本部の要請に従わないチームは、途中退場を求めたりする場合があることを周知しておく。
■大会等当日の対応	
①	感染防止のために主催者が実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をまとめた点検表を掲示する。
②	観客席の場所は参加チーム毎に指定する。座る場所は、1メートル以上の間隔をとる。選手は、指示があるまで席で待機する。また、観客席での飲食を禁止する場合がある。
③	実施後に、参加者等から感染症への発症報告があった場合の対応方針について、事前に自治体の衛生部局と打ち合わせしておく。
④	受付場所、トイレ、会場入り口、本部に手指消毒用のアルコールを設置する。
⑤	受付時に、健康チェックシートを受け取り、健康状態を確認するとともに、大会参加者名簿と照らし合わせて参加者数が守れているかを確認する。また、参加者の体温を計測して発熱している者がいないか確認する。直近2週間以内に発熱があった者の参加は認めない。
⑥	参加者には、試合中コート内にいる選手以外全員のマスクの着用を義務づける。
⑦	各コートに消毒液や除菌シート等を用意し、セット間には試合球を消毒する。
⑧	チームは、消毒液や除菌シート等を持参し、セット及び試合終了後は、ベンチを消毒する。また、退館時は、チームが使用した(割り当てられた)観客席を消毒する。
⑨	審判チームは、消毒液や除菌シート等を持参し、終了後は、記録席の備品、ラインフラッグ、得点板など、使用した備品や場所を消毒をする。
⑩	主・副審は、ホイッスルの上に不織布マスクを着用して吹笛する。専用のマスクカバーがある場合は使用してもよい。
⑪	開閉会式は簡略化し、大勢が一堂に会する場面をつくらない。監督会議についても簡略化し3密を避ける。
⑫	試合前後の握手は、エンドラインでの一礼で代替する。
⑬	手洗い場には、ポンプ型の液体石けんを設置し、「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
⑭	ドアノブ等を定期的に消毒する。
⑮	試合の前後やセット間に、ベンチ等で密集状態になることを禁止する。
⑯	試合中のハイタッチ等の選手同士の接触や大きな声でのかけ声等の発声を禁止する。
⑰	タオル・ボトル・アイシングバック等の共用を禁止する。
⑱	観客席及びベンチからの声を出しての応援を自粛する。
⑲	会場内の換気を常時行う。
■その他	
①	受付やトイレ等には、距離を置いて並べるように目印を設置するなど、密集状態が発生しない対策を講じる。